




タイトル「2016年度 教養科目シラバス」、フォルダ「2016年度 教養科目シラバス-サテライト科目」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	地域づくり戦略論B		
担当教員	藤田 武弘		
対象学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	時間外	単位区分	
授業形態	講義・実習	単位数	2
準備事項			
備考	全学部・全学年 人数制限有 (30名) 実施場所：秋津野ガルテン (田辺市)		
科目名 (英語表記)	Strategic regional/community managementA		
授業の概要・ねらい	農山村再生手法として注目を集める都市農村交流では、農作業や農村での生活体験を共有することにより「もてなしを提供する側と享受する側とが、対等・互恵の人間的な関係に立って、相互に喜びを共有する精神性(ホスピタリティの精神)」に基づく関係性を築くことが重要である。本講義では「都市農村交流によるホスピタリティ人材の育成」をテーマに掲げ、①戦略的地域づくりのための理論、②先進地の「地域づくり・人材育成」実践、③食と農の統合による地域活性化の可能性、④都市農村関係の変化と新しいツーリズム、⑤日本農業の行方と農山村再生の戦略、の5つの視角から農山村における地域づくり戦略を考える。		
授業計画	<p>&lt;視座①：戦略的地域づくりのための理論&gt;</p> <p>【01】地域循環型社会構築の現代的意義 (元和歌山大学・橋本卓爾) 10月01日 13:00~14:30</p> <p>【02】地域再生と地域内再投資力論 (京都大学・岡田知弘) 10月01日 15:00~16:30</p> <p>【03】グローバル化における協同組合の価値 (滋賀県立大学・増田佳昭) 10月02日 09:00~10:30</p> <p>&lt;視座②：「地域づくり・人材育成」実践の成果に学ぶ&gt;</p> <p>【04】地域経営のための合意形成と組織づくり ((株)秋津野・玉井常貴) 10月29日 13:00~14:30</p> <p>【05】農商工連携とコミュニティビジネス ((株)秋津野・木村則夫) 10月29日 15:00~16:30</p> <p>【06】産官学地域連携とコーディネーターの役割 (和歌山大学・岸上光克) 10月30日 09:00~10:30</p> <p>&lt;視座③：食と農の統合による地域活性化の可能性&gt;</p> <p>【07】料理人が繋ぐ生産と消費 (辻調理師専門学校・尾藤環) 11月12日 13:00~14:30</p> <p>【08】高校生レストランから学ぶ地域資源の活用 (皇學館大学・岸川政之) 11月12日 15:00~16:30</p> <p>【09】地域循環型「食農連携」と地域活性化 (農園杉五兵衛・の島五兵衛) 11月13日 09:00~10:30</p> <p>&lt;視座④：都市農村関係の変化と新しいツーリズム&gt;</p> <p>【10】都市農村関係の変化と日本型グリーン・ツーリズム (和歌山大学・藤田武弘) 01月07日 13:00~14:30</p> <p>【11】農村ワーキングホリデーの受入と地域の変化 (岩手県胆江農村WH研究会・及川一義) 01月07日 15:00~16:30</p> <p>【12】地域とともに歩む都市農業の新たな展開 (東京都練馬区緑と農の体験塾・加藤義松) 01月08日 09:00~10:30</p> <p>&lt;視座⑤：日本農業の行方と農山村再生の戦略&gt;</p> <p>【13】日本農業の後継者問題を考える (独立行政法人農研機構・山本淳子) 02月04日 13:00~14:30</p> <p>【14】地域サポート人からみた農山村再生の課題 (法政大学・関司直也) 02月04日 15:00~16:30</p> <p>【15】世界の食料問題と日本農業 (和歌山大学・大西敏夫) 02月05日 09:00~10:30</p>		
到達目標	本学では「域学連携」の観点に基づく地域での多様な実践型教育・研究が行われているが、本講義の受講者が、それら地域での実践的な学びを自ら深めていくことを期待している。なお、本講義は江頭ホスピタリティ事業振興財団の「寄付講義」として開講されることから、受講者における地域での学びの質的变化やキャリア形成に与える影響等の教育効果の検証を行う予定である。各種アンケート調査等に対する協力もお願いしたい。		
成績評価の方法	各講義テーマ毎に提出する「リアクションペーパー」と質疑応答での平常点 (@5点×15講=75点)、およびまとめの課題レポート (25点) を目安として主任講師が総合評価を行う。		
教科書	毎回レジュメ・資料を配付する。		

参考書・参考文献	○橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編『都市と農村—交流から協働へ—』日本経済評論社、2011年。 ○藻谷浩介・NHK広島取材班『里山資本主義』角川書店、2013年。 ○岸上光克『廃校利活用による農山村再生』JC総研ブックレット、筑波書房、2015年。 ○小田切徳美『農山村は消滅しない』岩波新書、2015年。
履修上の注意・メッセージ	地域の再生は、一朝一夕で叶うものではない。常に「現場（実態社会）が先生」という謙虚さと熱意を持って、社会人など多世代の人々とともに地域の悩みを共有しながら根気強く問題解決に取り組もうとする受講生を歓迎する。なお、週末の土日開催（土曜日2講／日曜日1講とまとめ）というスタイルの講義以外に、オプションで関連するフィールドワーク（現地視察や農家民泊・農作業研修など）が提供されるので、これにも積極的に参加してほしい。
履修する上で必要な事項	
受講を推奨する関連科目	
授業時間外学習についての指示	本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行うこと。さらに、授業内容に関連する課題に関する調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求める。 なお、視座⑤に先だって開催される特別講義「農山村は消滅しない（明治大学・小田切徳美）」（2017年01月実施予定）は、まとめのワークショップを開催する上で重要な機会なので、積極的に聴講してほしい。
その他連絡事項	

